令和８年産

ＪＡえちご中越 さんとう地域「こしいぶき」栽培暦

月	４月	５月	６月	７月	８月	９月
日	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25	5 10 15 20 25
出穂前後日数	品種特性に合わせた作業計画の策定			−23 −14 0		＋38

生育ステージ

種子消毒（温湯消毒）

【作業目安】

浸種開始　4月 3日

催　芽　4月13日

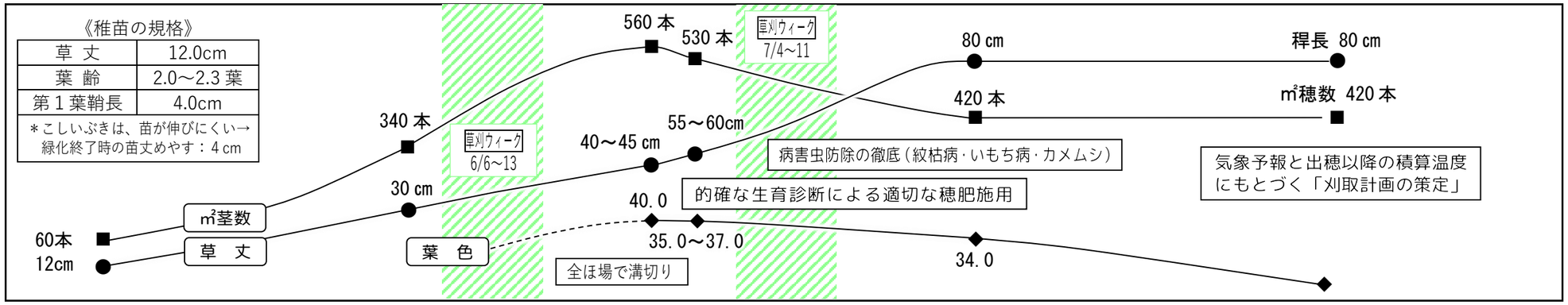
播　種　4月15日

播種量の目安:140g／箱

《稚苗の規格》

草 丈	12.0cm
葉 齢	2.0～2.3 葉
第１葉鞘長	4.0cm

＊こしいぶきは、苗が伸びにくい→緑化終了時の苗丈めやす：４cm



育苗日数は20日程度 → **田植え 5月5日～**

中干し開始 6月5日～

最高分けつ期 6月25日

1回目穂肥 7月 5日

2回目穂肥 7月14日

出穂期 7月28日

収穫期 9月4日～

病害虫防除

【いもち病予防】ブーンバディート箱粒剤 播種時～移植当日

除草剤散布

“補植苗”を早期に撤去する

6月中旬～ 葉いもち病 早期発見 早期防除

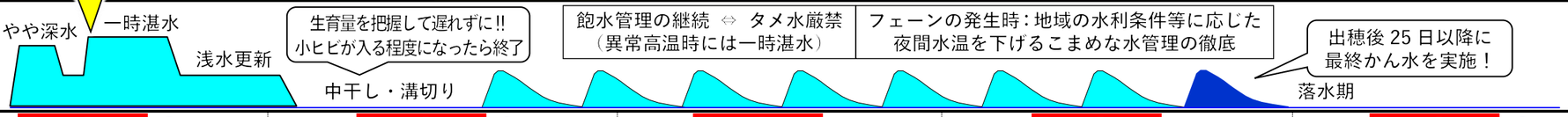
【紋枯病防除】バリダシン剤（収穫14日前まで） 穂ばらみ期～出穂期

【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期

稲わら秋すき込み

水管理

- 田植後→3～4㎝のやや深水で植え傷み回避
- 活着後→2～3㎝のやや浅水で早期分げつ促進
- 除草剤散布時→湛水状態（水深5～6㎝）で散布
- 中干し開始まで→**浅水更新でワキの発生防止**



栽培管理のポイント

Point 1

～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～

① 播種計画の策定～適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成

② 土壌診断結果にもとづく土づくり資材（有機質・ケイ酸）の施用

③ 作土深15㎝の確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥

→基肥N施肥量のめやす：植壌土「3.0kg～4.0kg／10a」、砂壌土・黒ボク土「4.0kg／10a」

Point 2

～適期田植えで初期生育を確保します～

① 移植前追肥（べんとう肥）の施用→活着・初期生育を促進

② 田植期のめやすは5月5日
- 栽植密度：60株／坪
- 植付本数：3～4本／株
- 植付深さ：2～3㎝の浅植え

③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除（箱施用剤）を徹底→補植苗を速やかに撤去

Point 3

～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～

① 目標穂数の80%**（340本／㎡＝1株あたり19本）**を確保してから→適期中干し開始

② 全ほ場で溝切り（10条：3ｍに1本）→速やかなかん水・排水管理

③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point 4

～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～

① いもち病・紋枯病の早期発見～早期防除（こまめにほ場巡回）

② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続（強い中干し・タメ水→厳禁）

③ 出穂後25日以降に最終かん水を入水（落水は出穂28日以降）～異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止

Point 5

～適切な生育診断による穂肥施用品質・収量を確保します～

① 穂肥は出穂23日前（遅れずに施肥→籾数確保）と14日前の2回に分けて施用→1回あたりの施肥量は**N：1.5～2.0kg／1回、合計3.0～4.0kg／10aを目安**とする

② ２回目の穂肥は確実に施用する

③ **出穂期の葉色低下や登熟期間の異常高温が予想される場合、3回目穂肥として出穂３日前までに N：1.0kg／10aを追加施肥する**

Point 6

～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① 出穂後の積算気温：975℃を参考に籾の黄化率（85～90%）を確認して適期に収穫する→異常高温が予想される場合には早めの収穫を検討する

② 穂発芽性は「やや易」→刈り遅れに注意する

③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入＋稲わらの秋すき込み

《施肥のめやす》（成分 kg／10a）

区分	時期	N成分	備考
土づくり	収穫後～耕起前	－	稲わら秋すき込み 有機質・けい酸質資材
基　肥	耕起前～田植え	3.0～4.0	地力に応じて
穂肥１	出穂23日前	1.5～2.0	遅れずに施肥～籾数確保
穂肥２	出穂14日前	1.5～2.0	しっかり施肥～登熟向上
合　計	－	6.0～8.0	＊一発基肥トータル N：7.0～7.5kg

《生育のめやす》

生育ステージ	時期	草丈（㎝）	茎数（本/㎡）	葉色（SPAD）
1回目穂肥	7/5	55～60	530	35～37
2回目穂肥	7/14	－	－	35～36
出穂期	7/28	80（稈長）	420（穂数）	34

《品質向上・収量確保目標》

玄米1等級比率	90%以上
10a当たり収量	570kg

《品種特性》

早晩性	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
早生	やや強	中	中	弱

《収量構成要素》

収量（kg/10a）	1穂籾数（粒）	穂数（本/㎡）	㎡籾数（百粒）	登熟歩合（%）	千粒重（g）
570	70	420	290	90%	22.0